

様式第 2 号

視察研修先	栃木県大田原市	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	旧蜂巢小学校の利活用について(多機能型障害福祉サービス事業所)		
概 要 人口 68,992人(R7.4.1) 面積 354.36km² 東京から150キロ圏に位置する大田原市は、栃木県北東部に位置し、東は茨城県大子町、西は那須塩原市及び那須町に接している。自然環境に恵まれた水を利用した水田や野菜と梨・りんご・ブドウ等の果樹が栽培されております。 廃校の利活用として、昭和7年度建築の蜂巢小学校が平成24年度に廃校し、平成28年度に社会福祉法人エルム福祉会が、多機能型障害福祉サービス事業所として「hikari no café 蜂巢小珈琲店」の運営や珈琲豆・焼き菓子等の販売をスタートしました。また、カフェスペース以外の教室や体育館は、地域の方々に開放され、ギャラリーやワークショップ開催の場として利用されている。 施設へ市内外、県内外を問わず多くの方々が訪れ、賑いを見せており、障がいを持つ方の就労支援施設としても多くの雇用を生み出している。 考 察 学校の廃校利活用のコンセプトがしっかりとしておりました。木造校舎・広がる田園風景に魅かれ、障がい者の学びの場のカフェとしての最適の場所を選択したとのことでした。 木造校舎のリノベーション工事を約7,000万円投入し、蜂巢小珈琲店を展開している。専門知識ある方々からメニューの検討や焙煎珈琲の資格修得者を採用し、運営をしていることが成功への一つになっていると感じました。 施設での珈琲の香りや食事の美味しさと接客の温かさが評判を呼び、市内外、県内外を問わず多くの方々が訪れ、賑いを見せていることに納得いたしました。 更に、障がい者就労支援のA型・B型就労の機会及び生産活動の提供や必要な知識及び能力の向上のための訓練を展開している事業者でもありました。 自然環境を活かした成功事例であり、本市においても多様性の中から学校廃校にあたっての利活用に大変参考になりました。			

様式第 2 号

視察研修先	栃木県那須町	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	旧朝日小学校の利活用について(那須まちづくり広場)		
概 要 人口 23,460人(R7.4.1) 面積 372.34km² 栃木県の北部に位置し、県都宇都宮市まで約60kmの距離にあり、北西部に那須連山(百名山)の主峰、茶臼岳がそびえ、今なお煙を吐き続けている。日光国立公園「那須温泉郷」として観光の名所となっている。山麓地帯には、別荘地やテーマパークがあり高原地帯には、酪農地が続き中央・東部地区には、水田が広がっている。南東部では、林業・石材業も主要な産業となっている。那須町は、農業と観光の町である。 「那須町小中学校適正配置計画」より、幅広い視点から「那須町学校跡地検討委員会」を設置し、これらを踏まえ「那須町学校跡地利用基本方針」を取りまとめた。利活用の一つに、NPO法人や民間企業への貸付けにより、旧朝日小学校の利活用を「(株)コミュニティネット」(現：まちづくり(株))が那須まちづくり広場として年間通じて様々な事業を展開している。 考 察 那須町学校跡地利用基本方針における本計画の利活用優先順位が定めていること。 ① 学校施設又は教育施設としての利用 ② 公共施設としての利用 ③ NPO法人や民間企業への貸付け ④ 解体及び売却 旧朝日小学校については、学校や公共施設としての利用予定がないことから、民間企業への貸付となった。公募制を採っており、プロポーザル等により10人による審査委員による評価項目・評価基準の審査を実施した。 ① 法人等の安定性：財務の健全性・収益性・将来的な財務の安全性 ② 事業の有効度：施設利用の有効性・事業運営の体制、進め方 ③ 事業の実現性・継続性：当該事業の資金調達の確実性・当該事業の採算性・事業運営の継続性 ④ 地域への貢献度：周辺地域への波及効果・地域雇用の創出・地域のイメージ・魅力向上への寄与 ⑤ 地域との調和性：周辺住環境への配慮・周辺地域との協調関係の構築 以上を審査した結果、最高点にて「(株)コミュニティネット」が採択された。 交流広場等では、様々な教室からイベントからハロウィーンパーティーやマルシェ等を年間通し、毎月切れ間なく利活用されていることに感銘した。 行政の関わりでは、運営推進会議の参加や、町で実施する研修会（介護に関する入門的研修）の講師を依頼することなどに関わっている。 更に、那須町も高齢者率が高く地域住民や福祉関係者を含め、世代を超えた交流がなされていると感じました。			

様式第2号

視察研修先	宮城県白石市	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	学びの多様化学校(白石きぼう学園)について		
概 要 人口 30,370人(R7.4.30) 面積 286.48㎡ 東京から2時間の宮城蔵王の玄関口です。小原温泉、鎌先温泉があり、名所・旧跡も多く存在しており、掘割・水路があり、商家の蔵が点在する城下町らしい趣がみられ、平成7年には白石城が城下町のシンボルに復元されました。 小中学校における長期欠席の状況から見ても、不登校によるものが増加傾向にある。白石市においても、不登校生徒がR4には小中学校全国平均を上回る結果となり、大きな課題となっている。教育を受ける権利を最大限尊重し、誰一人取り残されない教育の実現に実現を目指すために、学びの多様化学校を開校することが必要だと判断し「白石きぼう学園」を開校した。 平成31年3月に閉校した市立旧南小学校・南中学校を活用して、R5.4.1に「白石きぼう学園」(不登校特例校)を設立した。生徒数35名、教員17名。 考 察 未来ある子供たちが、普通の生活をしている社会環境の中、誰しものがなり得る不登校に前向きに捉えることの大切さを学びました。学校の利活用について身近なことに直面した気持ちであります。 開校にあたっては、R4.3～R5.1の一年弱という短い期間において承認をされたこと。基金の条例の制定においても丁寧な説明により採択され、更に文部科学省への申請書届け出の早期実現に繋がったと感銘しました。 ◆学校のコンセプトとして、「学校らしくない学校」 ①学び直しの設定 ②授業中のクールダウン ③学校行事はなく児童生徒の主体性を重視 ④始業9:20～・制服指定なし・定期テストなし ◆子供が足を向けたくなること「行けそう」「楽しそう」と思う気持ち。 ◆朝登校してからカウンセリング等を実施している。興味・関心に基づく探求活動を行っている。 ◆入学して父兄からの感想として、父兄の送迎は必要となりますが、親は子どもが心配で仕事も手につかないほど辛かった時期から、今は仕事を始めることができた。更に、夜寝られなかったが時期がありましたが、今は夜寝られるようになった等をお聞きました。 普通に通学していた子供たちが、環境や多様化の時代に対応や吸収ができず不登校になってしまう現実、誰一人取り残されない学びの場所が必要であります。			